

石城郡民聲

發行日一、十一、廿一日(毎月三回)
編輯兼發行印刷人北川秀雄
發行所福島縣平南町七八番地
廣告料五錢十二字詰一回五十錢
一部十錢一ヶ月二十錢送料五厘

「畏友馬目氏に答ふ」

◇一月十日發行磐城慨す心ある者の耳に謀に乗せられざらん
 調査新報同人たる馬は如何にこだます哉
 目雅治氏の石城郡下反對せんが爲めに反慮なければ近き憂あ
 民政黨員に大聲呼號對する愚劣陋劣極まるを考ふるは易く言
 せる時相警鐘を讀みりなき政敵のことはふは難し而して行ふ
 て石城人士の一人と暫らく言はば少くなくこの猶難きを思ふ
 し一民政黨員とし萬も同じ流れより出で時犠牲的精神の如何
 腔の同感を呈するに無言無語の中に是々に清淨なるかを想ふ
 共に一言之に答へん非々を識別し得なが二暗流を合流せよ。
 共す、即吾が民政黨ら何故に敢然鞭打ち犠牲の二享の清淨を
 は現今正に飽和状態て迎合共に一路向上以て而して石城の天
 に達しつゝあること精進し得ざる汚濁せ地を泰山の安きに置
 は識者の普く認識する金權術策に暗き道くが民政黨員石とし
 る所然らば此の際此をたどり居た石城天城人士としての責任で
 の秋に當りて如何に地も幾多の先輩畏友はないか一切の私情
 善處すべき? 愛黨の苦闘又苦闘に依りて捨て與論に順應し
 者の等しく憂ふる所民聲即民政巷に満ち與論を喚起せよ外敵
 なり他なし量の精算與論全く吾を支持し豈恐る可けん、恐る
 と飽くまで質實の一漸く明るき政治の緒、は内敵なり繰返し
 路を歩むあるのみ。に着ける石城の天地民聲は謂ふ與論の支
 繰つて石城郡下に於に於て今又與論即政持なき政黨はやがて
 ける民政黨の現状如治たるの眞理を忘却滅亡する事を英雄の
 何所謂二暗流なるもするの愚を演じあた心理よく英雄のみ知
 の存すその何れの理ら雄志英才を抱き泥らんも一抹の寂涼又
 非曲直の駭論は他二海に没するの遺憾な知る人ぞ知らん。
 に譲らんも、何すれきを期すべきではあ
 ば人の心は斯くも狎るまいか、見よ満面
 る、に疾き、民聲頻朱を注ぎ笛吹けと與
 りに切齒扼腕悲憤憤論更に躍らざる政敵
 現今の不況時代に拘らず産

の酷めさを心せよ二業の「合理化即能率増進」
 三悪徳黨員の私利權を提唱の下に健實なる營業
 方針に依り郡下は勿論縣外
 まで發展衆目を驚かせつゝ
 ある吾が秋山氏は、その温
 厚なる人情味と共に稀に見
 る奮闘美談の持主である。
 氏は舊會津藩士として生れ
 しも決然一大希望の下に大
 正十五年若冠單身植田町に
 至り、目的の道程の第一歩
 として或商店に雇はれしも
 氏の大器たる遂に店員たる
 に止めず、僅々二ヶ年にし
 て宿願たる材木商を獨力經
 營、而も日ならずして最大
 なる工場を設け、自ら職工
 と共に營々家業に克其精勵
 遂に今日の富を爲すに至つ
 たものである、見よこの經
 濟界行詰り工賃の値下勞銀
 不拂等悲惨なる折柄職工人
 夫に期待以上の収入を得さ
 せると同時に而も日拂斷行
 を爲す等人員待遇至り盡せ
 る人情味豊かさには従業員
 一同感泣業務に寸暇なき精
 勵に能率は益々上りその親
 切勉強第一主義と相まつて
 各地よりの注文殺到今日の
 隆盛を招致せるが口に能率
 増進と唱へつゝその何んた
 らかを解さぬ人多き現今氏
 の存在は全く事業界に一服
 の清涼劑とし、將來の飛躍
 衆目の等しく刮目する處な
 り。

秋山市造氏

植田町
材木商界の偉才

<p>平町仲町 増尾木工部 増尾甚市郎 電話三四四番</p>	<p>平町四町目 佐藤齒科醫院 佐藤武之 電話五〇八番</p>	<p>各種油類 田卷香油店 平町二丁目 電話四一五番</p>	<p>合資會社 大平組 植田 電話五四番</p>	<p>町會議員 小松章 勿來町</p>	<p>勿來町 常磐自働車會社 青田目信太郎</p>	<p>梵鐘 金燈籠 佛具専門 工藤鑄造工場 平町七丁目</p>
<p>町會議員 中野捨與 四倉町</p>	<p>西洋御料理 季節鍋類 カフエー松ヶ岡 松ヶ岡公園口</p>	<p>平町一丁目川岸通り トモエヤ洋服店 花井喜重</p>	<p>平町白銀町 河田鐵工場 河田梅吉 電話三三九・七六二</p>	<p>耳鼻咽喉科 平町田町 合津醫院 合津重雄 電話五五九番</p>	<p>静岡銘茶 大角茶舗 平町才樋小路</p>	<p>海陸物産 乾物商 仙臺屋關勝茂 平町長橋町 電話五四八番</p>
<p>時計計 貴金屬 常磐屋時計店 平町二丁目 電話三三九番</p>						

